

滝高フロンティアサイエンス通信

2014.2.18 SSH 理数科

第 19 号①

SSH 課題研究 (英語分野) 発表会が開催されました



2月14日(金)3校時~4校時の日程で、1年F組生徒による、課題研究発表会(英語分野)が行われました。当日は、道内大学教授・道立教育研究所指導主事等の助言者、道内SSH実施校・空知管内高等学校の教員等の参加があり、総勢100名の大規模な発表会となりました。

開会式にて、本校の運営指導委員長である酪農学園大学の金子教授より、「これからの時代は、ますます海外で仕事をする機会が増えます。そのためにも使える英語の習得はとても大切なことです。」との激励のお話をいただきました。

このプロジェクトのテーマは「科学者の人生、業績についてリサーチして英語で発表する。」というものです。実施にあたって生徒たちは、12月より調査する科学者の選定、ウェブページ・書物などを利用した発表原稿の作成、英語への翻訳、ポスターの作成、ALTの指導を受けながら英語プレゼンの練習など、ほとんどが初めての経験を積んできました。

各班の発表テーマは、1班「山中伸弥」、2班「スティーブ・ジョブズ」、3班「フレミング」、4班「ノーベル」、5班「ジョージ・ガモフ」、6班「ラボアジエ」、7班「キューリー夫人」、8班「杉田玄白」です。発表時間はおよそ5分間で、すべて英語で行うというものです。発表の後は視聴者である2年F組の生徒から、内容に関する質問を英語で受け、それに英語で答える形式です。事前に質問の内容については発表者に知らされていましたが、どの順番でその質問がされるかはわからず、発表者は質問をしっかりと聴かなければ答えることはできません。また参加していた大学教授や高校教員、ALTからもその場で質問が飛び交いました。まさに日本にいながら、英語コミュニティの中に飛び込んだような雰囲気でした。

発表は、ポスターセッション形式で、全部で5回繰り返し発表を行いました。いずれの班においても、最初の発表では英語がうまく出てこなくて、しどろもどろになる場面もありました。しかし、後半になると声も大きくなり、視聴者にわかるように伝えようという意欲と自信に満ちた目の輝きに、会場の雰囲気も盛り上がってきました。

閉会式で、道立教育研究所の指導主事である今井先生から「全ての生徒の英語の発音が素晴らしく、原稿なしでも理解することができました。とても高いハードルを、見事に乗り越えたという印象を持ちました。日頃の教科書を用いた英語学習と、こういった実践的な英語運用発表会を組み合わせると、さらに語学力の向上を目指して欲しい。」という感想及び助言をいただきました。最後に生徒代表の塚田さんが英語でお礼の挨拶を述べて、この発表会を終えました。

このプロジェクトを開始した時には、先生たちの中にも「うまくいくだろうか。」という不安の声もありましたが、生徒たちは本当に立派で、前向きに取り組んでくれました。この経験を、ぜひこれからの英語学習や班活動に生かしてくれればと思っています。

来年のフロンティアサイエンスIIでも、このような英語分野での活動を計画中です。このプロジェクトを通じてさらにステップアップすることを期待します。

滝高フロンティアサイエンス通信

2014.2.18 SSH 理数科

第 19 号②

開会式：金子酪農学園教授挨拶



ALTとの事前練習の様子



Group 1 Shinya Yamanaka



Group 2 Steve Jobs



Group 3 John Fleming



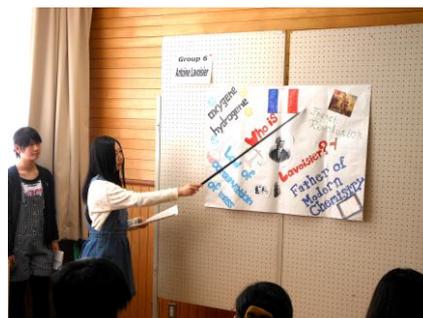
Group 4 Alfred Nobel



Group 5 George Gamow



Group 6 Antoine Lavoisier



Group 7 Marie Curie



Group 8 Genpaku Sugita



閉会式：今井指導主事講評



閉会式：塚田菜月挨拶

